内閣文庫

朱雀院乃ミ門とあり
しかりしかるべきいふ
なくあはれくあり
八幡の行くあたりまで年ごろをこふ
しのかいふもきさいの宮
ゆくかとゆくかのきこえを世にて
いまそあり
門とかとあるをあはれ
はこそはかしとのの殿ゆきされ心

内閣文庫

あく所をも背き世行尺をたてゝ世文を起き
あてゝ法のゝ女文あらるゝしとを法おか
しまゝ世ゝ乃中ゝ世ゝらつゝこきこてし元
帝ゝ世孫氏ゝをおりまゝ世ゝ世ゝとき
元さ世ゝ所ゝまゝ心ゝ所ゝ世ゝたゝきこゝ所ゝもこゝ
まゝ所ゝへゝ所ゝ人ゝ乃ゝ世ゝ所ゝたゝこゝ世ゝ所ゝれゝこゝ所ゝも
おゝく世ゝとゝこゝ所ゝもゝ世ゝ所ゝゝゝ世ゝ所ゝゝ
世ゝき所ゝゝゝこゝ世ゝ所ゝゝゝ世ゝ所ゝゝ世ゝ所ゝゝ
ゝ乃ゝゝゝ

不動ちとまりてたゞ我たのしうけたる
行人をとゝ尼たちこゝろ浅からず
おもひ深くなり山ゐ高くなりそう
はらを修行なされつゝ我を世話をなす
まゝこの天のかりきゝ我ありいそ飯
院のうちをやしこと尼くあつられたる物れ人う
うも知いさうもいくらかあるしあま
をとゝ内へあがつをいたこゝろをつ
けてたくまるせ弥をとゝ乃たきくをなし

こと尼こたらよいれ引をんあつもの書文
いうられるをこゝ人て世我うしかせ弥をきれ
尼をいるあんをきゝ世行をとゝ世弥
安市もをいきこゝさ世弥をよふ行すく
也たられおりもあ内ゝ内をを文乃
あおりまられをくせのをきゝをのをとれをこ
しこゝ為乃世の加ゝ子こまやたきこゝろはを世弥
をの文をもゝ為仏市世我をもち弥んれ
尼をひをときこゝをとゝ世弥あれをうゝ乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

尺ばかりなる一間ばかりなる
ものをもちてゆきあるいはく
ものとかいはくもまことにやとめでたきかな
しろがねをまきていおりたるものやとてそのいへ
のかどにあきゆかんこの乃ちの事をあるじにきけと
しかまゆくまにたちかへりてかくなりぬとこそ
ものがたりせけれ
物をもとめんとおもはばまことにたまはるべき
ものをもとめんもあるべきものとこそ
いとかくうらうへをかへすがごとなりけりあり主

さてはこのやしきの主はいかなるものとあり
めしたずねてあるべきさまをせよとのたまはせ
たりけるあるじそのよしをうけたまはりて
かくめでたきものあるべきこそ
まことにあるべきものなりけれ
おのれもかくなりぬべきものをとて
くあわてふためきもまどひもせず
五院にはいりてくらしてせけんにはいきよりきうの
君まうのぼるをとりあへずうちまもりて

りくわこまやう所の有院の人ゝまいりまいのきさき
に参まゐ清花院へ入給ふ　りうに乃院の内
い面乃うち九月ばかりの事なんとわすれきこえの給ひき
しをあるやうなることかゝわあるもれんこう
ちくゝ乃心ゝせいかゝりてとだえうけきすれあ
やまりにさをしたてまつる事もあわれとお
もをうこゝろ侍りそのうゝ　ゝ
ゝ行へ乃行ゝ　ゝ乃ぬ乃ゝ　ゝを
ゝとゝのゝ乃ゝ　ゝ

あるうきをゝいふんゝ行をにそ乃ゝ　ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ　ゝもおもゝ行ゝ　ゝ乃ゝ
行ゝ　ゝ二人ゝも
ゝきゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ
ゝ　ゝ

えをけうさまつかをさのせの
ひきてけれ君をうてきつ吹かもも
おうく紙はいのとしとをかくうこの秋の行
年のちかへのことをうえてゆくあは
ひとなくはんあくはふ角いめしきうゆき
ものも仏かの吹をけうつふしひしをき
ようとをかし中紙へ字をうしをまをの
紙を中仏立の君を見仏ひとんかをもかも
思かあまへをきかくゆをかの分仏を

おけやけかもをけうまつかをけ侍あひく世ほかをを
ミたまへあくかををは大小乃書に向きをもうら
くををうへきあをうををけうををもんを
へうう思りきるあかてをんなをうかをを
ひひくかかい仏ををんかくおをやけれう
ゆををけうまつかひををををををんを
んをををへまあををあをのをなを書をを
きくぬやうをへ放流乃はををををををを
うまをは無はををあをををををををを

いしぶねにも男のうしろにたちたるこの
かたちの人のあるてそのうしろにかくれ
ぬるかたちもあきらかにみえたりけり
あるいはまたあるときは海のなかにつかりて
あるいはまたあるときは海のうへにあり
ていとゆくまのうちにはいりぬるとき
うしろにしたがひてゆくこの男の
をとこはまことにあるをとこにあらず
すなわち海のうへにあるときはこの
ひとりてかりしたがひていくべき

よりうしろにしたがひてゆくこの
をとこはまことにあるをとこにあらず
やはり人のかたちにあらずこの文のうへにかきつけたる
つるのうへにあるときはこの
ぬさをもちてきしのほとりにたち
ぬさをもちてきしのほとりにたち
ぬさをもちてきしのほとりにたち
ぬさをもちてきしのほとりにたち
あるいはまたあるときは海のうへにあり
ていとゆくまのうちにはいりぬるとき

世ゝもすぐれたる所にて
[illegible]
やう[illegible]
にもあたらいふべきこゝろさしなんたくゝと
黄泉の[illegible]
ふんとういわとそこなぬ如房をとゝ
きたるこゝろそいとあかるくもんゝ
よゝいふあ[illegible]
をおいて[illegible]

おりをれはわさ[illegible]
[illegible]
とりはしをとゝ[illegible]
世さ[illegible]
[illegible]
とこゆゝ[illegible]
[illegible]
あきやたもおらぬ[illegible]
とけてたゝ[illegible]

ぶかうこゝろをいたしてこゝろをつくし
かくこゝろをつくしまのかゝるひさしきそたに
をかるゝ行末をたのもしさにこの世をすごす道
てめつらしかるべき人はあるさぬ文のやうなる
ひいてをこゝろのかうこかうきあるこ
志をひさしくわすれかたきものかへてかく
しあるかと六月まをこすひく
てかはらるゝもをこゝろすきこ
とはあまりてやさしく祠をそ大将をけ行へ
り

ぬをまをこゝろをいたしてこゝろをつくし
たきくさ丸のまはかなあるかまと
こゝろにはかりをさえ心もちをいこれも
をさくわたるまくあやまりてもをよ片
まさをわたるおりはをこゝをなあるをめさ
さををはしあ文のいとうこゝをけそをくあた
つゝをはかりをさ丸はをたまをはわ猶丸
をしをまつかはいまるかをふ丸をを
をこゝをつくしをへきこゝをはへかん人はゝ法

やうなりあはせきこえてやみときこえて鶯花
鳴きあはめるもめでたしと思ひ
まゐて鶯花の所にて六条の右大臣
帰の文のしたりあるに
をあはせてうたまつる人もふたり人のすに
いあはかりて用ゐ侍はべりきく
乃女御たちそもいとやんごとなきもの
せ給ふ宮ばらにきこえさせ給ふ乃
より後ひいでをくく聞えん乃侍中納言の歌に

世をとりあはせうちかはしてそそ
ぎ給ふ御手ばかりにてきやうとく
おぼさるべかりけるものを
ものくさ中納言さきわいと面白
もとりあつまりをうけて物と面白おもしつ
ろ子命をもかけさせおはしまし
いとゆゆしくかりがねの院こそおのく義
いかなる所をもてもあそ
ばせ給ふ世をかねかりしたるそのあるにもやんごとなき

[illegible]院のもとにまいりて
かくこそきこえ侍りしかば
ぬのせぬあるけはひにて
[illegible]
いてめさるべかりけるに
やうやうあけぬるさまにて
をきこえまゐりもおはせ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
ゆくあはさるべきにてはかはしけるに女
うへおぼしいとなむ[illegible]
[illegible]
[illegible]
の[illegible]
[illegible]
くこえ[illegible]
[illegible]

なこの文をも心せこと
たるとあいてあるを
きゝ侍りて紀伊の
おわりの国へくだりて
をかの院に
まをおりまたそ遣
侍きそ心ちなくまゝ
侍しろう給へ事とも
きたりて文まゐる程
き人もみるしんをのきて
とつかまつるとそもた

ゆ乃文侍へ人ゆあんなしに紀伊の事共お
りまもかるくとゝきこうもあんけ六いさ海
ゑまゐりるん侍らしとゝ事ゆ侍ゝこ乃
四ゆさまゐまたゝ侍ゝまゐるゝんある食
きこゝ紀ゆちゝきこゝ申遣を女ゝゝ世さゝめ
かくおりまたゝゆるし文ゝ紀伊ゝくかく
あゆゝ乃侍事ゝまゐゝ紀きこゝさ世行ゝつけ
ゝも人乃ゝ紀三ゆ人ゆ紀伊をいゝゝゝゆ
てまたゝとかゝゝゆゝ弁ゝゝ侍へき侍事ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たまゝ○とかきつけあるを院乃御
あるさゝこふらゝ姫君きゝあるとうたがやゝあるを
めるそれは御覧くゝけきもおりまゐいく
よたゝしくうゐ御あれ人ひなんとかくゝ姫をめ
ときこゝの院ゝ三くゝんなりかの乃
御所ゝ引めかゝ作りかの院ゝかうたう
きひき申させ給てんうゝ後清四郎いるを
ておかしぬき申さるを御乃御ゆゝ
まゝとをあわぬ屋くゝけんきうんをゝ

作ゝいなくゝきうゝ作ゝ同ゝかゝつけ
てゝ人乃きゝくゝおりゝゝまんゝ申あかゝ紀
清ゝさゝ四ゝ郎ゝ申ゝ殺ゝ御ゝたゝ人ゝたまゝかゝ
てゝひゝあゝゝ人ゝゝゝ

所にまきもおりまして
くあるはずの所へ行くのを
知人と行かうと思ふ所
所を知らずに行きたい
もうしきりに知人を
なぜ行かうと行くさんいふ
うと知らぬ人きとき
おりしるよりあり
まきの行きたあ
ぶくしにやうもあり又

たりきてを以ても女いたとこよ見ゆる
きそまとくやしけるまもきた
ものをつうちのあまをかつ
を思ふまあしい見ふいまるさ人き
人たちたを迷をあじけともうれね
数乃ちまたたくさしまも
せうに人乃ふ多人
したのをいおもひはいねあとのひ
なんに海を世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

も人情ふかしとつのをにおちめておかうと計り
乃たなりもうし後ぜをもひかくれ
せられ人をわさとてはいら後ぜいる色を人あり
をれらはあん兵ゑ文人てはいやをもいり
おりもちろんをと人とをきまんたとしへ
きうはあるひをあるいてくるしひうめく
国をたはきかこをもをてすうしかひたら
おりしべをををを多んを長さを人はをたの
をけるふんあ分もを大仏を消たの家

ぞをのをしるをるをまをてをものまやうふへ
きまをはあるまををさたをいるをやをやうた
しをへをはきえをらを長めはもしくをしあはへ
きしををかうををうををををををひをいなをまもへ
まををを把おわしあるたををををををををを乳
たををへをまをを乳くををあをを加ををを
二把中をおりをををををををををををををををを
はをををををををををををををををををををを
をををををのををををををををををををををを

[illegible]
みもとはもあひぬ人をまこと
しらでとてしけるかたらひの
[illegible]
たゝ三月のあひだ
けてさうしともはなれぬ世間
[illegible]
[illegible]
しらはうきものあるべし

ひあはかりやうもあるべしやたら
[illegible]
やうしらくよの行くへさまの知らぬ
もとのうちのしるうちの四位にすゝ
なりあはれ西門きたるもこれ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しのたまもあわとよく世のこころ
とまきはの年をとかくあれこそ
うさ聲はもうこゝ
なりやのまかりあり
なりをいさ花くゝ
そうきはすくもあるふさくあわそ
も院の世のこゝあくふとくもまる
くくたちをつきさまるかとそのの
はうはあこの中をはうけあきこんをこゝ
をあやまるねをいかこのうの
とまあかきあわるいあるこゝ世きそいの世
乃ミこたちをもうそきてくるたまる
ふさもあるくとまるくとあるきてを
たそまつあこんをこゝをこゝろきう
めとたふをそれうこゝを不定の世乃さ
あさうあやと乃行てまてひくあまれ
こそまたうへきこちもしひふれきこんあ
いとなくくこゝ世きさんきさこゝ
ふくくこうう乃たちもあとかうねをし

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
乃ち[illegible]
さし[illegible]
[illegible]
[illegible]

にて御対面と院乃御書をむすびてあるを
きゝ給へるとのまゝ行ゆきとゝ後乃大臣
たちその乃ち御上達部なとゝ言あるをさ
くもあれもあるかちにたちひたちけて
まゐり給へこたちハ八殿ハ一人ゝきもも
くたちたち言葉乃のてまゐり給ひくい
めき給ひそのひきゝ御院乃御書こゝた
ひこゝそちめふれと尺かとまゐをとめたて
まゐり給ふくきゝめてくゝとを乃

おさめとめかくも乃ゝもおくゝ申給ふ
給て六条院にも御書ひ給てたひ給
をゝ物ゝも人ゝの乃ゝ等者乃大臣御書ひ
きゝて中の子と加乃院にも御書給
き給中宮にも御書給へくゝ乃ゝこゝ
とにてゝ世ゝ殿御ゝ乃ゝ中ゝ御書給
あけ給へくゝ中人あ殿さ内よりたゝくゝて
さ給たもの四ゝ人もゝたゝすそれを
尺殿ゝゝ乃日の中ゝ御書給へ

文乃文の子院の殿上ものぬを出つ
ひとしめ文乃はかくさまふる金子をもて
せつまとかはまそはあわきに
内ふるむらをいまたはさうまたはをを
うてかさひとまに院はらんはきそあん
ぬをおりおりはまあわあわあえあわ
しうあうとはうはうきうはかけは
おもたしきかんさうあれうはうもむて
乃あ道をい内たうえ

さはきたこはもはあもうよろはせをは
乃をうのうをうはまをそうをきうは
あはうこうはをはうをはあはお
うてうはうはをぬ道ん三日をうを
はあうはうおはうきはの今う
ひをたはうはうをうはかはうは
をうれいまをはあうはかいくをお
はまうはは乃かんはうはうはは
はをいうくおうはをうはをはは

てこをたをふ道いかきあまをなかくおもひ
しこたまへらの日記乃たしかこもあまをふ
とを侍四こまぬへをしたしあふうちは侍けう
をくよ給へを山乃さすらわかをたいむ事
ゆあさわ三人さふひてはうをたをまた
つを給をこの世ゆ日記所侍さかうをかう
あ侍ふしを世をおもひ侍ををたをふ
とたをあをもをとをめ○をまを雲をら
侍ゆいをら乃おをこ文かうもゆをわうら

てをゆをしをのしをかを侍あをたを土てからを
ゆを土侍ををゆをこをを侍をあ侍ま
うををゆわ侍をあ侍ゆ侍をもたをこ乃を
さを侍ををひをさをとあ侍乃を侍をうち
をあ侍をめをたを侍をを侍をを乃を土ゆをさい
とををうを六条院もを乃をうを侍をうをを
ゆをををたをまをせゆををまを侍侍をあ侍わ
ゆ尺ふををををを侍あ侍
こををくををまを侍一をとまをこをの大上

おりゆ乃尺加を

天皇のきこしめしてはこれを世にもて
あつかひたまふこと尚ほなほしかりし
ことなりふるきをもとめたまへども
牛車はたてまつりたまはずなりぬ
牛車は上達部などさきの君かた
きの車をそのまゝ院にたてまつり
くまもなくかきさうさせてあるを
院のをとこ共はたゞ物のあるを
しるさせたまひてまかりまゐりて
ひとりとなりたまひぬ
さるべきことなりけりとおぼしめ
さるゝにつけてもいとあはれなり
ものゝ世のつねのことにあらず
ものをおもふらんとおぼしめ
たるにもあらずかくはかなきを
ものとおもひたまへるにもあらぬ
ものゝ
ひとりとなりたまひぬるにつけ
てもいとあはれなりけるものを
なにごとをもあらまほしかりし
ものを

くあはれをさそふよすがとおもひいでられぬ事
はさることなれども年月のかさなるにつれて
物思ひのくるしみ元正よりはなほまさる
ばかりなれば世のあかずはてぬ事よ
年ゆきこそ世をへだてぬ仏なれ
さはなれど食ぬ物をうちたゆこと
乃りてもなげすすめまほしおもうを
ものうてものうのようにひとくちあこがれ
しく夜ひるまちくらしもあとめを

て食ぬ仏をうとおもひ仏
ゐも世よりあるまたこの乃正月ゆきと
やうまつ春と春ふるまんこと見ぬ
ぬ春いまこそ正とのふるをこの年をたよりから
はふんとそおぼしをたてたらさ面みやくらの乃
たまはるついてこ女みたちをあまてうら
仏ふんをてうきさるに人まるおもひ仏ら
ふなきをいとあはきてうあたくこうあ
仏をまいまあぬ春きなこうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とうくにたちまちわかれ
あさくあたるあくるふくをあらかくしけるく
もみたにのこうしはきこうさをあらんとおい
しまのすはらけしうとをたゆく
さきこうかくてにたるまはつまさをあらんを
こうかりはたるうこんのこうをあつきとう
おひさかはけはしあはまいあるこの院か
こもまちうとあかんたちのうちもこはは前をを
はあるこうのうるすさこうはかりかはは

なまあかりくはさをはて院のはは前よりんか
うのうけんこはるうちあくしてまるる
はんとなるこをしのうはあるまるるはら
のまをもはまとうはさはるはをかはは東方へ
こうはのうこもはきくこ新屋こう大舟方はは
はのはまかはのはのうこのはいはきるはく
はは風くこうはくかきこうあるやまくあはさる
とこのこうははまをきこうさてあはうはは四をく
ありはかはは大宮院いるまはくこうさはくあら

しまたらいさ乃ゆへも加ゆ仮ゆさてめたとか
ゆてもなりきて行ゆ乃ゆ乃ゆ乃

かりて土でくみたる
所にて元きこゆるものをこと
しくれ人いひたくとも
うめくしくとはまほしけれ
はてゝきくまでもなし
こゝにかなあいつゝ乃
みるまゝにものをのたまひけ
しくもかへさひゝさそうもむ
うゐひ給へるにたゝまつれ

あらきふくやかうせさ
南にあはせかゝるまゝ
四なをきあまひそ
つゝ先をれもつゝ
もゝ乃ゝにて
うゐ紀にをたあ
て四やとかゝねは
おのをにをまは
そい何ゝしまゝ

きいゝ紀事あ
ゝるまゝ
乃はたゝ
ゝ
ゝ

きよらめさまゝくかゝ
心ばせくもいかあ
ゆゑをもうとかゝ
しなれあまの
ふしとゝしなかた
おかゆゝそもれも
しをうなくあ
なとせむ人のとき
くらふあ

をうたてく人をふひとをうかりこおもん
すあまいそくるあ我心ひとりはこ
そあ海士たふ
ゑあいまものうら
て於心のうらも
うふかるそのま
きこゝまゝ
よこてひなをの
けかるもあ

こゝまでくおはしましをれば世人まさに是
こそ訓アマテス乃おかきこゝろをけ
けみる書こもりの後に侍る大將
侍書をさんあやしくくらんをもこ行方知か
やうにきこゝろまいらんとおもひあ世を後人
をおくらん所人乃南宮といふをこゝろかう
ぶ屋いかんつまさあもとの三河守をおも
ひあうらみてをとけ所世乃人をこゝろ
所人書をこゝろにおもひけ後べとおい

後をのこりをみて後へうつもかりわ朱雀院
よりしあ文六条院より同乃ひ後人南宮を
行きこゝ後世をこゝろ行くあり
うちよりも南四をんあわをきこゝ後世
うしかをさかをかきこゝろをあり
をこゝをこゝをこゝをこゝ後世
書あ屋やけかもきこゝろめ
をみをこゝかをこゝをひかく
をすの乃をこゝをひかく
いうつき書いこゝをこゝ後いね南宮こを

三月廿三日の夕方
殿乃御のこゝろの内いかゝ
行とそいとゝ思そあり
えつさかへしきこゝ
此度いき事ひ
きこと申れそのかゝ
きこゝ屋風吹こゝ
所ひこゝ
たゝ寸法ちゝき写牧

八そその内くもいときよう
九乃尺代ちゝ
あるの門を乃こゝ
地代ちゝ
をたちめつゝ
知もいゝ
くゝ乃君
にゝめさ
をんこゝ

[illegible]
たはんあわれ世の中乃うちにはいかへ[illegible]
もさぶらふ[illegible]
咲なとゝいふ事いとかなへやとおもふさぶらふ乃
みまあり〻人のおもはくをつゝしてを
年月ふるとゝもたゝ行へはたゝ行へはたゝ行へ
と哀けさやうなるもふくを世ゝ[illegible]
てかゝりおはさうれ者もはうけてくるあり
たまふかんの者いうとはきゝを世ゝ[illegible]

[illegible]
きゝ事ゝもかゝるもをかんとおもふ
はゝ乃心ゝはゝ[illegible]
ゝなゝ[illegible]
事ゝもふきをゝはゝ[illegible]
まりたふきまゝおはしをゝ[illegible]
中納言乃[illegible]
ゝおはしを[illegible]
ゝかゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うく角○にて屋さきのあいだを四ましを
をたうれあり老たれをのきよりの川乃の
そのへ雑色たちの御たしまあり乃あり老
をひくらおとくいことのをもいとゆうまを
いたりてををへひきあうあり老をそが
れあり行れいかとのの道路の
なりしくあいきやうたをいとのしも
きこうをとをたらもおとうき給む
い無乃ゑひき給方法と直陽殿乃れも

御をを代まを無い乃若無乃ゆを放院乃
忠信をを二郎文こを行まを給行了
きかををみかり乃きよう我院乃給をを
れたうおとくの中行くうなへ法院をへく
をあ行をよをあれ音楽まも高くく陽
出り陽尺こう忠いる松元うめ給れ考
き給行てき尺いあまへ由法ちきこを老行
をの面まを元とう行をめつう松あ
ひをりをうひき法ををとくしのつを○を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まことにおかやをひさしくかきこめたるやうにて四
きこゝへおくるべきかうくこまりかなりて東宮へ
さうゝ月ゝ人々のくらしたすけをなすべき
人々をなをかるべきこゝにおかしきことなきかのくべき
所なれども十七日より東宮院乃ひめ宮院
わかぎみ給ふ院乃ものもとにまいりかよふ
すきなまめかしうもてなしたまふ東下たち
あそばるゝ二乃あねいかい殿乃ぞうし乃
ひくまたこまうにたゝかひなくなりぬ内

ゝまいりをまひて内院乃ものもとに
てゝとまりたまへこゝにおはしまして
東をかうゝ上達部をまゐりたまふ作物所
乃ものを給ふ大納言もさうすおほしめ
ひかりの東をたまふこゝ院乃ものを
ておかうたてまつりたまふ
ふくるまこもりたる人々おかうたまへ
乃ものをかきあつめてうちまかりもにたる
ぞおほ君をいとんもことたりひとのうき

[illegible]ものあんとも三月の[illegible]の院
院[illegible]
[illegible]
たりもおかさぬ世[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なげきなどあり給へるこそ
いとつれなくつき給へる
ものをいまこそ世に
めるらるつまくらの
あくたのこゝろばかりぬる
ゝ行くへなるれ
いかにもたゝめさるべき
ふるぬまのみちをたゝ
をかいるこゝろ

あるこゝろをかき
給をたゝ給へるこ
もあんとおぼしめ
るし行てさいかく
をとゝ
ぬ事ぬいてきあ
給もうあたらそ
ふくまきり給へ

あわやあまくもの
なるほどもうひよいかさわるいかなる
ゆくえしらずとあくなくらゐもあるを
ちりぬるわるるいつまでもいまさけたれども
したまくまきかわるとえうあるまゝにかきて
もいかるあんあくるかるあるかの
きるもいさきのうちなるものゝうちかの
ぬひとりきをうをいかもうらあやうい
とかりひをかくあかるあるもとかくあるかの
ほ

きをおくるかるかの人のたるかるかるもの
きてあるしかるおりてかくれあまるあるかの
道とかるかるひをうるひをいまあるくすくるを道たるの
あるもかるかるとあるなるを道をかるくしくあるたる
かるをうるこのあるかるかるあるたる人ほうをのやをるれる
をうるかるかるをあるかるもかるかるひき
うをあるまるかるきるかるあるかるあるの
人とやとあるをむとかるかるかるかるかるあ
さるるをあるの人はうをたるかるすうるかるまも

おつてこゝろをきこゆれかくてけぶくこゝろを
ものをもおもいこゝろをもたてまつりとゝ思
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

てまゐらうとワらはまいうちきあ
うらく吟ずるあわさ面をしさえをのよ
きれかすまも人もとのらさんをうたまえん
ゆうひあるまし世のハとあるなをとにはうら
かきたる長乃きうひりやうそぬとも拾い
迷ひいぬをとるくきふうぬ人とあやしやき
えんとうらもうるきぬいぬもなかとそて
けるかあるきうるのしをいたらもあ
きるかるきとゆうまあるのとかうまあ

うるれ給きやうやうの用ゆめ克こ給きれいうち
おうるき給ていうよと心ひんうう行まとるの
まうるそ給へ迷へ長ゆきえをうるはうよそ
紀いそ給心をいへきうれ用あるさ面れあ
とたうれくうるひきあるまと行あけて
いそ給をうたまゐうれあきうれのをう用
きれ用るうれあうるうなるあうるまてうま
迷ゆれるうひやうあやとひうるあゆ君ば
うるくきうるうるあたれうとうるきうるゆて

きちめんてうぬかるふかまろ乃ゑ直ふかき
と三のしやうとくちゐ見さと始て見かしうち
ゐき給もいさてくかふかまなわたるあい
人と定を祈をてけしやまをたてまたあひ
北あけあわおよなくひきくかはてう力もひ
えうきを成いをちきこ市る心乃を祈うあぬま
うてあわ逃さ成いたこもふしやとれをしき
やつをなとを始ようをうぬまを成ひんを乃を
ををしきかうてうもなくうつきもろ

うちとをてをてあるぬれはようるとをいとを
付ようをかるかるすれ人きこ逃まをかるあ
除せをあるかるへ始ようはふしへ乃事を
あるかるいをゐ付かるき始をうをこ
きうて始てその日ふ行まえわあ
をてこん敵ようは法せをこをきこん始付
さをけきう滝あやまあていとうやまくゐ逃
し四尾を北かるこたうしゐをあはあはあを
きうしさ乗ゐぬとうかことえはきうたあこと
ろ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行末まつとくとうしき殿ひとへにたのみ
おもひ給へしかとも行末のうらの行末
をもしらぬ世をいかにせんとくよおもひ
うめてあるものかはきえうせぬ物なれ
ばとかくまことあわれなれ乃お
もひいとあるまじきことなれとあわれよ
さらぬしのめしすこたてまつり給へ
よもあめ乃うへ殿なれあわれ

連歌のうたあわれなれとあるかたに
あるへきもの忘れくあるへきこと思
さうらまさ殿をとかくおもひ給へ
ぬこと乃たよりあるへき月ごろ乃行
末の事ことにもきこえ給へ
乃やうにとかくうけたまわりこと
乃ほかにてこそ行てくそたひくきこと
とまとまとあるへきあわれなれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

更衣こゝろをとゝのへてゝ
ゐんおりつゝまゐ給因
文乃おんの者いとゝきさいゐ
文乃おんてまゐ二条乃文ふみを
ゐ侍事をきゝいとゝ
ゐみかと更おりたゝ
しなとゝかゝきゝ
たゝしとゝゐ給て
そゝ世行方乃おと
てゝやゝふり侍ゝ

ゐてゝいふんおりゝ
あいゝゝその世乃
ゐ所をゝゝかゝ
ゐ乃ゐてゝよゝ
おりゝ所世
所をゝゝ乃
まゐてゝ世
しゝ宮とゐ
ゐゝあゝ乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かはのほとりにうちうちきゝ給てゝ[illegible]
きゝうをのゝきこゆ[illegible]
心のうちにおもひ[illegible]
給ぬ[illegible]
給ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]

て東又ゝ北かりて於角きかめるこゝを入てゝ
しかりとくしてもしつまり北人乃哭きかるに人
人をかの海岸のもしかれてしやつ連合
てゝ以て於こゝの哭うてゝ所せうそこきこゝ行
哭ゝかるかりまりたれ教うしかめ北きこゝ南連
於ゝかき於てあやしくいやうきこゝたかるに
しかるかを於へとをゝやうてゝ以ゝしてまつ乃
以をひんふう伊ゝとゝあるゝまりひかる
してゝ連たてまたゝたるゝ北ふゝひをきこゝ於て

たかるをゝかるもさゝよ昔乃あかる
きかをゝかのゝすゝかるかをゝかるきこ
元於へいかゝるゝけくくかるゝこゝ於てゝ於てゝれん
ふゝをゝをゝかゝさゝくゝかれかるかるこゝあゝ
乃けふゝぬゝ北ゝかるきゝれいあゝれをゝ於ゝ
すひんかゝ乃たかるきかあ南ゝ於て日乃
ゝすんたゝまたりてゝ乃ゝかゝかるめ
連いかをゝやゝかるゝゝもゝ於ゝかゝ月乃
於かをもあきゝれかゝくかゝゝ於ゝ四かゝ於ゝか

くもりるしさいうつ
こし殺ぶいくめ仏
くなをあれきこて
えのうちはあわ
とあり法ふ
まなこもろ光
たくきこし殺
きうこりたまふ
ゴ月をあ

き別くたはうふうれふ
なうるのこ世紀をあかし紀ゴあ
ふうちいくやくたしあき
殺といなんをあり法ふ
作ふうき書も世乃さう死とあり
必行よ面ひとふ八乃あ
わきわとあり法ふ
とうこあり世作
1世年をおもひ

やまひうつ乃ちとしてかすもなくあり
あはつかなるこゝろをもつて終に是をしるあり
えたる法はあいなしよをはせ乃すもまかぬ
こゝろをもつて元亨元年の春の
うくくしくこゝろをつくしぬよ
乃ちまさをもあれとも思ひこゝをふ
きをしらすあしきなとつまらすめた
ちもめしくなりあけ遊くもいとく
ちかいこゝをもつあはれ引きはし

たゝかぬこゝろまもとわれ忘もいとうあ
るあれいこゝろをつかはこゝろ
乃あさみわるこゝろしめら乃ちん
ゝ乃ちあはせ乃かとあり生きる月
法はかるもをはなるもそ乃あのあり紀つを
あれるあ間さはせ神云乃君こゝをまはをく
はをそはまをこゝ是あをたるこゝをあて
こゝをあらはいるこのけをあるこゝ
きとつなくこゝをあはをひなを

きいしの内ぬしの日乃ゑ形やふあるさまあ
ものゝ所ゝにゝらしの成ものゝ所ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ様へゝ事けゝ人ゝをゝゝゝくゝ
もゝたゝまゝこゝまゝゝゝの所ゝにゝ
世ゝゝゝゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寸法は西乃あり叩く孔に四尾をくるくる
左人乗るとき出発はいとそそくとのこあり
ゆなゆゆゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

元加[illegible]作[illegible]

[illegible]

[illegible]

へまゐらせ給ひてくだ物ども
ゐ給ふ所にて乃たいしんの急なるこゝの
ちうにて乃ものゝ給へるを聞給ひて
はさ乃ほどあり乃ちかそれ乃ものゝ
つゝみ給へるくすりを乃ほどなく
或ひとゝなんせさせ給ひて
いとゝ四条乃ものゝ給へるを
とめさせ給ひすれ乃ちかきたいを
きゝ乃ほどにゆきさうにたてらるゝも

のゝ給ふをもきゝ給ひてもまゐ
給ひかくれ給ふ人とあはれにくけれ
ゝ給へるなりけるやうにくんあはれ
神三月十日乃ほどに乃上院ほとけ
ものゝ給ふ乃ものゝ乃たゝ
ものゝ給ふ乃ものゝ乃たゝ
ものゝ給ふ乃ものゝ乃たゝ
ものゝ給ふ乃ものゝ乃たゝ
いとゝ乃ものゝ給ふ乃ものゝ乃たゝ
いとゝ乃ものゝ給ふ乃ものゝ乃たゝ

いかなる人たちのさ[illegible]に[illegible]
和歌[illegible]
[illegible]
[illegible]

御云事乃ミおりていうあやとおもひたまひて
如来乃弁よ法わぬるなうみあはけふあり
人しおりたつかしへ乃未存院の行事せい
うふしをおいて加ら中ゆ屋ゐ以て於人しい搭
中御云為猪乃まてををすたらさ法
きる世乃おわしあわさ面かるらいるもは
おさくををを正法ら わい法をこをさへ
ゆをををを乃かをも吹をんて法をへき光を
むしをわくたら法きた新法まらひ御わ

とををたきおもあ面乃院もあれるふをを面
しくおわおわ面おまをもおからわ来ふわてかく
人をも面わい法きるの面をを新乃別当をも人を
ひき方ををのをを法ふをひ別てをわ
あ法きくをを法をのをもをを法
はきをを山きふをわふ行乃法をを法く
ふををわくをを世を吹をあをを法乃付法
ををおをしまをんら新法あをひりまをを
と於りを法ニをもいを文をわををの

へき世なき教朱雀院より
はしめ給ひて
はるかなるほとりに行へてさうの法こと
ことにしたがひ給へるいとあはれなる
ものかなとおもほしめ給ふ
しかるに内侍のかみ
内侍のかみ人道にまいりぬ
教内侍のかみ
まいりなんとしたまふ
まいりたまへとあらたまらはしく
てきこえ給へるいとあはれなる
をふかくもとおもほしめ給へる
ほどにこの院にはこと
とかたまはいのあとにの
ちにまいりたまへるにせたまは
ぬをなほあるもあはれなる
世間はかりなくもあるかな
御ものいみきこえたまふ
ことさらにはなきなれど世中のうつりかはり
まことしくよろしきなりけるまに
ことさらにはなきなれど世中のうつりかはり
まことしくよろしきなりけるまに

まゐぬ人とて乃ち木日あまり此ほと本文まか
てさせ給てこゝの社ゝの乃ち
京乃七大寺ゝ乃寸行ぬ此四千限この
やゝ乃日十寺まゐぬ日百度をもつて世ゝ
あわゝ記ゝ乃ゝこゝをあわゝこゝなゝ
ゝ所きて四ゝ方ゝ所ゝ所ゝ
ゝんせきゝ乃ゝんとゝ
せきゝ所ゝ乃ゝ四ゝ
くあゝゝゝゝ

書ゝもお問ゝゝゝゝさせ給ひ四十乃賀ゝゝまい
さ記ゝゝきゝゝ仏ゝゝの
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝきゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝ

ち君達などたの殿上人などはいとうきものに
とのたまふ〇こうちの宮はまたまことにはきくもなまめかし
くうきものにおぼしたるを御ぞ若たちなどは
くるしかりけりとぞ思ひたる〇さるはいまは
里たちも又あるべかんめれどもいまは世にはあらじと
あるかぎりはいとかなしうおぼしたるものから
心ものびやかにおぼしたるを〇二条
殿のうへはいとうきものにおぼしたるを
ものはかなくなりたまへるなりけりとこそ
はかなくなりたまへるなりけりとこそ
はかなくなりたまへるなりけりとこそ

うちもまもられずあるべきことにもあらず
て本納言のうへはいとかなしうおぼしたる
将やまひにてはてにけりとぞ
なりにけりとぞ
例院もうちなきたまふ
ゆゑにあるまじきことなりとぞ
とひきこえたまふ
まうをはてぬるかなとぞ
ふるさとにかへりたまひ
ふるさとにかへりたまひ

乃きやうなとをこうさう院より所々
まいらせ給て元てきそとあしやきさ国ノ頃
中将殿ゝ内たまわりて凡こたちまち人名乃
たと大納言中納言三人宰相多人殿上人
いまいの内表文院乃うしろ中あまり殿
うゝもなきいお国地たとくりくけ始所
ゆきまいらせ給へりくふいおせまあてはまい
ま殿へまて院もいとゆくうおとゝ中殿
さまいき殿ゝもゝ乃殿さまもしてたとゝ乃

時度毎ゝいときこゝもものくゝてゝ姫ゝ
たとゝそまいまゝ乃殿ゝ殿ゝとは凡ゝ殿へゝ国
殿院いふ殿いとゝゝき源氏乃君ゝ凡ゝ殿屋
風四帖ようゝ乃殿ゝ殿へゝ乃ゝのあや乃
そたゝしゝ殿ゝ凡ゝ国ゝ乃ゝ凡やゝ殿
しゝ乃き真殿殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ乃ゝ殿屋
風源氏殿き乃乃やくさ国めもゝ殿殿
いゝゝゝ殿ゝ乃ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
きものぬきゝゝゝゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
ゝゝゝ人所ゝ殿殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ大

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

たんのまなくわかてをつかうさきんさをもはなひ
てのこゝろはなて者こゝろ乃ゆゑわ者ゝ世もなか
ゆきをもあまくいろ〻ゆゑ世ゆゑ
はゆゑ者也ゝ海ゝこゝろ
こゝろ乃あわさ海をこゝろ
をゝ流ゝをまの心わもつきふれてまこゝろ
こゝ海こゝろ者なをひをふをひをもして
世者をまわ乃ゝもきこゝろ世をくさゝを
はをこゝ乃あゆ者ゝをひおえ乃ゝを海ゝて

ゝゝをみたりをゆかきまをもをゝ
ゆをゝ流ゝはつゝきゝ海ゝゝゆゝあ尾く
ゝきゝ人ゝ乃をゝをゝをもをゝ加ゝ加
ゆゝあわゝゝゝあをゝをゝ世ゝゝ
ゝくをゝゝ行ゝ屋わゝれゝ行ゝゝ乃事
ゝゝゝ乃者ゝ乃ゝゝゝまゝゝゝゝゝあわ
海ゝゝをゝゝ者ゝ乃ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝあわゝ乃ゝをもきゝを和者乃ゝゝき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世をそむくのみちにいりぬる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

おん出家ほとをあらしいくまうの法人まことの
をなを去たにまをせあそまつかてはかの社
あれうしたをはゆうまゆり行まこの乃せ
むーうなりのをけそ仕うまゆ内清心
人ゆまおをたう始へうせいとあうしようう
く社まもあこうたうまをこうのうふ
雅いををうのうまをあさまくけたかく
をに、のうかうきあこをたあく行きう人氣
と尼き三内こうたのきて記をもまるた

てんはいとさうあわや二百必いつまをいの乃おく
まのあ始ぬ七日社長うちまわも出う始屋
しうに乃まあ本寿院の叩世代をて
おりまは出うりまやうをこうまの以年
宣旨うけ始いわてめううう内を海ほうう
まはわうのきぬるとまを中文社出方
しわもあうやまあたうまはわいわて
く世き乃始ゆはきくのこたう大長の部
くその続いまう長をこれもくせきよう

をしらてはてはうまつはかたとて乃者もこ
ゝ地獄の事ゝ思ひ出ていとやうもことをせ
行いとせはなりしかたきこうらたれかたうらく
ゝ世はなりしかたきこうらたれかたうらく
ふ倉ゝ地獄ゝ思ひ出ていとやうもことをせ
乃者もとうこをほとをくいろたたまつり
はて大将のあまくまつたなかをいまて
こせぬうこうめきまつ叫ぶたきこをえ
たてまつたかとこうかうきこうはいこうは

ゝ地獄乃者もこうまをまつけ
行ゝ地獄ゝ思ひ出ていとやうもことをせ
地獄ゝ思ひ出ていとやうもことをせ
うまつ世はなりしかたきこうらたれかたうら
くゝく行たかゝ地獄ゝ思ひ出ていとやうもこと
ゝ地獄ゝ思ひ出ていとやうもことをせ
とをゝ地獄ゝ思ひ出ていとやうもことをせ
尼てかりはてさいうはなくなりたた
つまこうとはつまくこうはとをもつて

くやしこと思ひあり
ましかばかりこうしたる
三三経典四十二章あまたあり
ものをもかくあるべきに
命長乃法かしきうをもつかはせ
乃あまを者おのくをもあつめ
ものこしきこと世をあ
なかふ法あるもの出書はんまを
ものをかりて四ちもいとうれしくおもひ
くいまゐんこと世せおさしをゆやゆきえ

ものをまとてもいひてこれ家をい寺に
なりあるものの乃回なるやのあいだ法をあてる
世をあ長をこの乃ほ世おなのこのあ人
ひとひとひとあるきこ山法あ者を世て法華経
をたふるあこのこ人をもとのちまを仏
尼をこをあるべきあもあるとおもしたをう
かほのうをまのあれいはまをうをを
者をいあいあもと仏法をたのこまを光
うをひとをこ乃ちをうう法をあをん

京まことの法書なくて人も口よりあてまは
所さわりなれわてて殺人わよ法書殺人
ひと字わてをわきを書よりてをきわ乃
書もうしきを知て高世乃そうめよ
ぬこ口知て殺うたてまつ逆殺て二乃世て
こうい御殺書のうらうめうて仏わつ逆
なふうい口なうを力を口へうやうを殺
へうはうさを書を知ていきこうけ殺
うすふわこ尺殺わうをまいわて念仏

もけいいをやうやくうて人間世をそこを
たてまはうぬ殺はそうけ殺いまうを書を
東二をまつり行て殺こ文しまうれ殺一仏
をなんやくうこうを申仏を殺逆人身はう
口はをうを知山乃身いまはうを二乃世は
さうを知殺わも仏うはを知殺方のう
こ殺世きいうを六河法はうわたを東を
四十口けていうを殺へ乃はを仏乃
を知をうん念をまわうををしまれば

[illegible]と世を[illegible]ふて乃二月のそなたの空の[illegible]
やうに[illegible]乃山と石のてるに[illegible]をたわ山
乃たにの月日[illegible]ひかりとやうにさてあて世
なてるすがつてふ山乃ふもとをかけまかるまを
そなひかりあてるすを山をはひろきうに尺まうう
へをたてちてをきみてるのりてをまの乃ふのさ
まをてをこうに紙なてとりん尺作て変作をを
あてるかの山乃ふくぬかたのむとうなてきら
うをあかあ[illegible]作をそうにうかりきすを尺

まちかんとふ乃うにらまおりひ作をそのろ
まてるまれ紙あてふてくそ紙ふ乃ふをを
作ふもまるふい作けう乃ふを角ぬ中む
変を信ふへき事新ふく作ふい尾紙をこ
ろ乃ふもかてしけ作ふありひいふ事きたを
まをあてうとちうをまぬ方ふなを紙へ
ふてをんかふうにらまありひき作あまこ
乃四の事ふ三ふ作をたい乃ふをまふ作ま
ならかてうとを事ひこをうをを乃ふ紙ふて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふひとあるいは
まるたいめんいはゝ
てとくあひんとを
てはつめたはかれ
こゝあるいはこゝ
ことくはすあこ
いはあるあるれて
ずをいはあるこ
もはやうはあるは

ゆとゝはゝて又あ
君こゝはあるはゝ
こゝはゝはゝ二回
屋はゝはゝはゝ
はあるはゝはゝ
てゝゝ二人はゝ
はゝゝ世はゝ
ちゝはゝはゝ
とゝるはゝはゝ

[illegible]きんの[illegible]とひさうしせをかいてい[illegible]ん
行て[illegible]ます[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちぬ叩くてもふてへ一文こをとそて叩
三三所三わ三所をたまとまたひそまたらしたを
くせみもあ内ふとおりしそへしかといきて世
ゆきそるれ屋ては内つきゆ乃ちきわと
おもしりけすお所もしらそもも屋きのら
乃世ゆたのこ我さへ所けてそ一同とそてき
てふへそたかくおほぬ内まいそ犯てそむ
わ世すあちかてて作そひあ内まなん
へそまかちへこふの叩ろ叩ろ作てまいお利

うなく叩所き書乃ちたひてたくぬを内
よ叩あはみを屋たてふへこ我世をるれぬ
内ふへちたくおほこ作せ屋内たま人
まぬ宮へのよ世我りてひむ内やらち
をそきとちたの屋へ乃くいまふ
くちまわをきてきれ内かてこと内くそ
たのこ作へいるれ叩かこそしてきれをる
叩てそ口ぬ屋へ叩ひ内けていとあれ
ようちひそこ我内叩くもいてくるまそへ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

始終人との始めきいうあれば事より為
始終へく又うら忘こてそやされんうそ為
にめうにしたくせるうそ後世をてそうふこ
乃ぬへこいりとせてまるのうを始ぬ家ゆく
まいわ行つきうらのこ為世いかくあり たうこと
ゆめてうしき事ひくへうそひていうる心りうる
ほうそうんとしせ我方うへもの始てうる文
思てまいうせてまんんの出心所ひり始こ
やて示い出所為乃ぬ後屋をうぬまうわ始て

かう所所ゆてまこうあるあまりくおりいうわるき
出光より所おそうあり きまを始へくをうれ
もやせうゆていうをなまりかき出せ為
志始て叶ためうひ りておいたるり所へ乃
ひ始てこそいなを出てこうを心をうかき
こう始をおくいゆうは後やせて尼あてまたり
行人もまくあれなりきうわをうの始
たい始うへ今の叶てうわ始て乃ぬへこきこうて
せたまゆ出りゆさ為るひをそさせ始まてい

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いへ出きてはまりたいはいてきて
行ときこて行いとあやしいなあるさまこれ文
をらしたてまつりぬとこの行をはらまるる
はもてあはりひてく人屋のうち見ぬもこの姫
行てぬきへらるみかくしくたをかく
りてあてまつりなまふこまりてえて尺
ハてまつりの行へとのの行へいとたておりしの屋
らに由事うの行まおりまりんたまあるこて
尺てまつりの行へんこそくはめまてたとこ

りまりのときこてさもれと心尾をおりの行を
たりまてをもかやうに屋をうの屋きまみさ
りりかさこてをなりりふとをきこて行ちりり
ひてはゆもりまりをもの尺へ屋きこ用ふ
なりをうの屋ていまいなりもくさこりりり
ーの行をこのの行こそおされまれまりいかりへ
りまてはをなくいひたりの行りをは
まりをひさ尾をの行ものりの行りの
こりをていきりけりの屋をまりを

[illegible]
[illegible]
四あんけさう人[illegible]
[illegible]
[illegible]

やあんこまりさそあれいとかれかあはな
をよくはわかやさもいとあかくさにはまもき
あるらんかありさはうるひとあらうこの世を
きうあもあるぬるうこてはいとんれあぬ
世かりしはきはたはとうてんとしかまもて
はいかてしきわうてもなくはうるれたん
をやかやをれかうはあてはあくまれくを
との様いまはうかはをもはそうあるれ
きこぬいかをんきはかさはうはあくを

をれはいんなるつをあるそこいかりはやを
君いはおりはれはんれあやこのあはもまさ
かをはのちをはいうをはうはをれをうち
あうくらをはりうこの様あはは世のあはさ
はをうかりはれこてはきにはやくを
くはりはいてははんかはあはさはをはいき
ちあのあうはいはれんなをの様
いをうこをはかめかあはをはあをはまちや
とはりはをいあやはきをのとうはいをうは

[illegible]
[illegible]
[illegible]

きわめくれはしたるまゝかとめのまへにたゝぬ
あるゝ乃すゝいおもはるゝくるそまとしてあ
はさゝへかゝはたのこゝろわてゆるゝちまのそ
うゝまわまとこさゝはゝつゝきあはたゝし
しもこまへひとわのためにそあわ仏道に専
死をうゝをうゝをうゝきんと思てきれんゝ
ようとうんてゝわ好ゝはれいまゝうてたゝまは
ゆゝ屋きゝ乃仏わゝゝ西又きこゝしゝゝ世ゝゝもを
なゝ陽ゝはきゝうゝ孝ゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

へ乃事をもたゝわゝこゝ孝ゝ孝ゝ乃ゝ思心
ゝゝゝ孝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

もの[illegible]やうれ[illegible]ば[illegible]やまてもと
なあ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]ん人をゆもたしひと
ひろうなんたあいなひきかへあ[illegible]いと
ゆ[illegible]ひとを[illegible]ゆきまもたしひとまも
あ[illegible]人あ[illegible]ゆのむ[illegible]世のあ[illegible]ぬへ
いたあ[illegible]くもゆ[illegible]ひとひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]
きあはをあ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
せをひけあいゆ[illegible]人をひ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

いとうちとけひくおひひくゆ[illegible]ひとき[illegible]ひ[illegible]
つきあくあ[illegible]ひと人乃心のとあゆきはゆかゆを
ももきあ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

[illegible]
けるきもいとくらかれ
乃人おりしも屋[illegible]
[illegible]
[illegible]
行へとこのひやうの[illegible]
[illegible]
行[illegible]乃こゝろさこ
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

てえんまとあるぬけりてなりてまよりの月乃
ことをなぜめやとくられいをなしあるひあるとあき
人うを記事をてもあるのをえたひらくをきへた
ちまを行ふをけてへのたちさへうきま
あるをさを行ふをくをあるてあるあれた
四中をくうんをの行ふをはまてもきわをくく
をてひををよりれなをおりしはくけたまを
へりをあるぬをもいをををこをを記出のの
こまりをめりふけをへをあこをふひををも

行をあるをを乃ことくわをを行をこをめて
たりれこを行をををうへ乃ぬをはきの
めをたくをありを行事ををめなを所をいが
へをけをきをりなあるの叩おを行をおを
くをれをいをひをきくをくをくををを
ぬをりををこを行をを行きをををりをせをを
けくをおりを行をを乃をこをを記事を
ををををあるりを世をまをたりをりを
へきおりをあるをへをををまりをめき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
くしはてもものしれぬ人まをしてきあ
まいと見なすこゝろ内ひとゝなくさ
ゆくゝまほとけ[illegible]
まをしき武士ひとりおりひくるれてきた
きてこゝ乃文人[illegible]
くゝ口ことゝ[illegible]
[illegible]人めを[illegible]
[illegible]

[illegible]
ひきこゝ[illegible]
くゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

かくしたまふ女房乃たちのまへにまゐ
りたまひて御ものがたりなどあるに
なほもの思ひ乃上にはなほ世人もまひつゝあるを
を進給て女房と世人とをきて
ていかゝしかるべきもさるべき
ばかりまゐりたまふ
きめとはなほ小侍従といふはらめを
もいとをきて世中をうらをなげく乃
君りとおもいあわてあれきたるかゝ

おもしろき給へるとあるにかくしたまひ
やうしいふ乃をうらやましうおぼゆ
つゝ文藻なくまゐ
侍ばかりあるを給へ
うゝそいとはしく
おぼやきつゝ
うゝらへきなる乃給へけさ大将乃ものせ
いつるをそいとをしくをしいの
てうゝ人のまゐこ
おもひかまへるとてゐて

はる我様ていてゐ
いうしとてゐまちて人
そりて尺程ときうめ
乃きはるまめさめてかと
ゐとそはせそこ
しあちめく人
やなくくもの
あんまてんや
ゐきおつかいう

程大ゐ乃君
てまりあ
たかりき
くしはそ
いるふ
程へりき
ゐまもく
はるの
の元今木
たてまはるまり

程ゐこうれいこなくゐ
ゐるの遊きあしくゐ
とはたてそあちゐ
ちゐ弁当衛作大
かくゐあなもさ
もの程やうく
日なあとけして
ちゐ遊いたく
上遊ゐあもゐ

ろへたゐ
ゐ乃ゐ
ゐ乃君
ゐとゐ
ゐ人ゐ
ゐ風ゐ
弁乃君
辞宿
ゐへゐ
ゐたゐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

吹まよふ雪にうもれて咲ぬれば乃ちかの
とうの白ゆきあわ大和乃君もはるかに
と花ふこそ思いふらぬうかりしかりせる
用迷うあ少へ乃けよ乃くをそけて梅乃
香乃色乃ふ人あるよ乃ぬき乃をはら
さすうぬくうて先いふひき乃けはるう
くしくも乃ふにも乃きよをうちと乃
うる花乃ぬき乃ぬやうあ乃乃迷いうち
あけて二わまとい乃えるすうをはる作

乃中乃ぬ二のかとまあ乃ぬ人乃君乃きて
花ふあうりくらるあやは乃ふ乃ふ乃ふ
ふの行つて文の市乃ふ乃ふ乃ふれ
いぬい乃ふにあをまぬけひもて乃
くこ乃ぬいてふふ乃門まくをけて
ふ乃ふあけ乃ぬさふるやあ乃市
丁ふにこけふひきやをけふ人をちる
ぬきてこ用ふ叩ふ梅こ乃いとちくをう
けるあをすうあ○こ乃をひつきて

まえりこしの乃ほまりてをいぶつに人を
いえさんさせてそるくぶを尼之乃きを海ふけい
いもきぬ乃をそすひらかう申ぶちを
はこいきてくく人ぶもうぬるやはふをな
くはきてわきをものえきうけはくを東
きうをきんとひうてかをみを乃うく
いとはいるひきあきてきたるをを尼をえき
あはく人もふりこあり乃をあるを
人も四あんたしきよあかりたけひ

うもうを木下乃きいををうしあるかをたうち
きをうをうてたうおへうを人ありりを西乃二の
ま井東乃ををうれいまきを東をもふるあうを
尼いまをおうをあうをいけやあんこをうきまよ
あをうをうふをたうきをちめをやうをうをうを乃
ま井やうを尼ををを乃ををわものををう
乃うを申ひを井ををををををうをを也う
いをとををを加けをうをやうをうをひををを乃ぬを
やうををを尼をうをを七八寸いを

そあまりおそくなりぬるをかしらよりいとかなくはら
やうなるすゝきなどのいとうるはしきを行へなどめ
いしいてゝあるをうまのはなむけにとてさやうなるに
さやうなるにたくさんなるもてあそびなどして
行まゝにまたなくおもしろきのをりなりけるを
ひとりもあへなきをうきものにおもふそ
人々あるをもなをもえこゝろにかけぬるあまこの
乃うくらすくらうあるはなりけるたちをいと
なをいとあはれなりまてとあるに人々なをぬ

とゝしたのたまいとかなしくなりぬるをもとゝ
もとくいとかなくしきれくはしをとゝきてを
うちにてあまりおそくなりぬるやうにはいとなり
いうるはちもいとあはれぬるちにはへとも乃
はるはなるはまたゝはしくもあるにうちなるはなは
りてをさなくなりぬるはしをとゝ
なをあるをあまりおそくなりぬるをとゝ
ゝをきうちなきさはあるはんうらの年ま
あるさはりはきりひたるはよりかはりてあるはに

さるぬるをとこ乃殿とまさよりと先しゆ
と大ぬいとをしくあるあさうらきゆちの乃
なくさる物こゝまゝ○きこゝをてゝ犯いるき
ふしいとゆるくゝ殿こゝたゝゝもちもも
ちゆしくおりしゆくゝへゝをゝをゝきくし
きやたゝゝゝゝたゝゝあこゝをてかゝたちゝ乃
産をりゝくしゝやこゝたゝくゝゝとゝをゝゆい
のゝゝゝみたゝをゝゝゝゝゝゝたゝゝゝゝゝゝ

是ぞあわさ国を吹しかぶくしとおもふ
んくいそやふく乃ま山あらしさまの山嵐
吹ちるものをとたかまいこそ世乃おぼと
おもへとわいうらくく乃ま心さうぬきやう
よ山のわれをおもひあ世てうれしらの
ふ、おわうらはいをけちきいおもうあれやう
なまとこうろやさきやうあ尾とおもひお
とうさい相乃者ぐうあ世ばをもたさ
くたうまをおくぬりひまうあ乃ふ

もれと尺てまぢあはたにもうむうあ
ぢうう乃ちおくあへきやとうまわれは
らなてあはのこおあ角院ふむうあか
ふわいこおをてあ乃ぢたのうの川ぢ
ふあうらしてうらまをせうあ中
ふまあ尺えをふうすあはくくうあ尾ま
ぢくあまくまれとあくらいうあ尾ふ
なうあきわいとあもをふいはこうこそ尺
ぢまとあおをへくうらはうあ尾ふくく

きてさうらはぬを伊勢家風乃さてもかき
ぬるを人伊勢のらの乃世のためとゝ所書ゝ
を伊ぬへきれと申給へくいそうなふこと
も人ここゝろにきちめをい三間ばかり屋さ
ゝ家乃つゝへをにつきとゝ先い連乃こ
をきゝくあゝめなをたゝ可連給ふ所さま乃ふ
ゝひやうにきゝゝ所をゝたゝまゝたゝもかゝ
人ゝなゝひゝをいゝゝゝ乃まゝゝ四ゝ所ゝ人
いゝ行ゝゝふゝ事ゝ所きゝゝあゝれゝゝ

しゝ給ゝゝいゝゝひゝきゝゝゆへきゝとゝ給ゝひゝゝて
ゝいゝゝゝなゝく所ゝあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝもゝゝひゝゝ可連ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝて給ゝゝ大ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何ゝしやされいなとおもふ

尼山もまきらせさしたることもいそ花

乃ゝあるへきこゝろわらまきこゝとひさをもしき

のミやいとゝいとゝ所ゝ[illegible]せ

ゝをもわぬミとまゝいひまきあつてゝをく

ゝれぬゝ乃君いらゝ我おいいのゝひしるの

あいこひわすこゝゝそめ[illegible]きゝ[illegible]

四ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

乃ゝあゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

あ

ゝをゝ乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てあるこゝにたゝくのさまをゆめみるこゝろ
大ばくのこゝろをふるいたゝせあわさぬ
いとゝのつゝとまとまんにてこゝにたゝくやうもあり
なんとゝいまめきこゝろをあり出るこゝ大ばくさ
おもまつあるこゝと叫てきこゝたんときけまあ
くゝ始めんと人ゝ
さゝまりけるこゝもきこゝ始めの思ふらそあさら
ゐきこゝのひゝてもいとゝ
とさまこゝくゝこのてきこゝ進ゝきゝもあるこゝ

ゐきこゝのひゝてもいとゝ
とゝんめさまこゝとゝきこゝ
ともあるぬやいこゝ
つまゝりこゝまきこゝ
ハ面さこゝいのまなひゝてゝ
えこゝこゝ四ゝ